

第19回「言いたい会」

以下はまとす会が毎月開いている「言いたい会」で、特に「地方の教会の問題を語り合う」という題で語り合った会の会話を文字起こしたものです。会話の雰囲気を出るだけ残し、読み物としても楽しめる様にしました。個人の名前などは省略してありますことをご了承ください。この小さな仕事が皆様のお役に立つことを願っております。

日時;2024年7月29(月)20:00~22:00ころ

題;地方の教会の問題を語り合う

参加者;S(女)、H(女)、T(男)、N(男)、Y(男)、SA(男)、司会(男)

司会;田舎の教会はどういう問題点があるかとかね、その辺をこうお話できればと思います。Hさんも田舎といえば田舎の教会に何十年も仕えてこられて。田舎というより郊外ですかね。

H;私は(出身は)福島県なんですね。それで、奥(地)なものですから教会というものはなかったです。で、キリスト教っていうのに初めて触れたのは高校の図書館でキリスト教の本を読んでいて、信仰に非常に心打たれて、それが教えに触れた最初だったんですね。それから教えに触れる機会はなかったんですが、公務員の試験にパスして採用されたのが福島県のいわき市の平というところ。そこで一人暮らしを始めていた時に職場にクリスチャンがおられて、それで誘われて教会に行きました。封建制度が強く残っている地域で、当時キリスト教って言うとアカと言うんですか、ご存知でしょうか、アカなんかと言われ、近づかないように、みたいな感じのことは言われてたんですが、田舎から離れて教会に行きました。その教会がバプテスト同盟だったんです。そこはおばさんの牧師だったです。私、キリスト教っていうのに触れてなくて本の中しか分からなかったものですから嫌っていたんですけど、誘ってくれたのが上司だったので仕方なく、好奇心が旺盛だったこともあり出てたんですね。そしたら自分で考えているようなことではなく、素晴らしく人生のことを真剣に考えるところだなんていうことが分かりまして、そこで私は入り浸るようになりました。教会は勤めの帰り道にあったものですからいつもそこによりまして訓練を受けたっていうことだったです。随分丁寧に訓練してくださいって今思います。はい。30人から40人ぐらいの会員の教会でした。記憶してるのは、早く洗礼を受けたい早く洗礼を受けたいと思っておりましてけど、まだダメだ、まだダメだ、まだダメだって3年かかりました。講壇の下に水槽がありまして、そこでザブンとやるものなんです。今までの生活に見切りをつけてっていか異常な決心をしてバプテスマを受けた記憶があるんですね。

それで、洗礼を受けた途端、みんな青年たちは都会に出ていくってことを牧師も分かっておりまして、どこの教会に行ってもご奉仕できるように徹底的に教育をしてくださったんですね。洗礼を受けてから1ヶ月も経たないうちに礼拝の司会をさせられたり、いろんなことをさせられました。そういう期間が1年ぐらいあったと思います。あと、勉強したくて東京に行きたくて転勤を申し込んで、そして転勤させていただいて、東京の本局の方に来て、そこでも勉強させていただいたんですね。キリスト教からは離れることがなかったっていうことが非常に幸いでした。

新しく紹介された教会が日本キリスト教団の大森めぐみ教会っていう大きな教会でした。岩村信二牧師で

した。大森めぐみ教会の伝道部というところでまた徹底的に学びを受けまして、そこで何年間かいました。職場結婚しましたので今の土地の昭島市に来たんですね。そこで 50 年おりました。指導者に恵まれて随分鍛えてくださって。辛かったこともたくさんあったんですが、地方の教会で徹底して教育して下さった。生活全般にかけても教育して下さったということが基になってるなって思います。田舎の教会ですね、青年たちはみんな都会に出ていきました。それでその牧師が東京に出ていった青年たちのために三崎町教会で月 1 回集会を持って下さったんです。そこで離れないようにっていうか、教会とも結びついて生活するようになっていようなことずっと面倒見て下さってました。

ありがたいことです。地方の教会が送り出してくださったこと、今になって思いますけど、教会経営が大変だったとか、送り出してしまって見返りとかそういうことは考えられなかったかもしれませんけど、とにかく徹底して教育して下さったっていうことは有難いなと思います。個人を大切にここまで関わって下さった地方教会の牧師先生に感謝しています。先生はもういらっしやいませんけれど。今日はそのこと申し上げたいなと思って参加しました。

司会;今日は田舎の教会がみんなどんな苦勞してるかとか、問題点があるかとか、そういうことを話し合っ
て記録にして文字にしてみんなで共有して、更に、田舎の教会をもっと発展させるためには IT をどう使ったら
いいだろうとかかですね、そんなヒントになるような材料作りができればという風に思っております。

S さんは地方の(石川県)輪島とか(茨城県)日立の教会を牧しておられたので、その時の苦勞話とか思い
出話をしていただけるとすごい役に立つんじゃないかなという風に思います。

S;私は東京の富士見町教会です。神学校の時もずっと富士見町教会にいました。地方に行ったのは日本
聖書神学校を卒業しまして地方に行ったわけですね。本当に都会を離れたのがそれが初めてでありまして、
苦勞話もあるんだけど楽しいと言えば楽しかったな。両方ですね。あんまり苦しいとか大変だったとかいうの
よりも楽しかったっていう方が多いといえば多かったですね。いろんな知らないことをもいっぱい出たっ
ていうか。

ただ能登半島は非常に、私が行ったのはもう 50 年前ぐらいですからね。女性の地位っていうのがまだな
かったんですね。それで女性牧師を講壇に立たすっていうことはほとんどなくて。主人が牧師で説教して
私はオルガンを弾いてっていう感じで。説教は輪島教会では 1 回もさせてもらえなかったと思います。で、新
潟行ったら今度は逆に新潟のミスっていうのはちょっと違います。女性が働く、男性の仕事はあまりないっ
ていうようなね。そういうことでございまして、女性も本当にみんな働いてるっていうような感じで。そこではもう
説教もさせていただいたし、色々なことをさせていただきました。その代わり生活するのに、アルバイトはもう
本当にしなきゃ生活を支えていけなかったっていうのが実際でして。生活に関わっちゃうとあれなんで。ま、
なるべく主人を中心にして生活のアルバイトは私がついていうような感じでやってやりました。

それで私がそれをちょっとやりすぎて体を壊してしまって。もう新潟の雪のひどいところではちょっと暮らせな
いっていう状態で。もう辞めようかと思ったところ、日立は雪が降らないし。こう、体がね、多少病気がちでも受
け入れてくださるっていうことで今の日立教会に移って、そこでまた牧会を 20 年ばかりさせていただきました。
苦勞っていうことあまり思わなかったんですけど、その土地土地の独特の雰囲気っていうのがやっぱりありま
して、そこに入って行かなければだめだっていうことです。

藤島村画(?)先生が「家庭を愛し土も愛しなさい」って言われたので、その土地に馴染む、土を愛する、
それをやって牧会をしてまいりました。成功どうかは分かりません。もう神様が、これは判断することで、ただ
与えられた使命を必死になってやってきたっていうのがそのような状況であります。力足らないところはいっ
ぱいあったと思います。

で、IT 関係はね、私ものすごく弱くて、この機会に今このビデオ会議に出るまでに大変で、娘に手伝って

もらってやっとパソコンから出していただいたぐらいです。そういうパソコンとかそういうのは本当に私は苦手なもので、いま勉強しなさいとは言われてるんですけども、なかなかこの年になるといじれない。正直に申します。

司会;はい IT はね、もうその歳になったら諦めた方がいいですね。勉強しても身につかないですから。私は教会の若い人に助けを求めてください、という風に言ってるんです。または息子さんかお孫さんね。それに助けを求めてくださいって申し上げてんですよ。で、H さんなんかお子さんとお孫さんが助けてくれるのでこうやって年を取って外を出歩くのが難しくなってもこういうビデオ会議だと自宅にいてみんなとお話しができるのですごくいいという風に言っていただいてましてですね、ま、私もそういうのを聞くとちょっと嬉しいです。

S;はい、それで私がいた日立は、やっぱり日立の業界っていうのですか、教会の中にその IT の強い人がいらっしやいまして。礼拝もライブで流して。何て言うか、教会のあれも全部こうしてくださる人がいたんで非常に助かりました。自分ではできない、そういう関係の会社関係の専門の方がいて全部やってくれました。礼拝も賛美歌、聖書全部何も持ってかなくてもそれがスクリーンに映るっていうような、そういうような事を全部やってくれたんで、年寄りには優しい教会だなと思います。何も持って来なくても。聖書、讃美歌が結構重いんですよ。それからもう開くのに大変でしょ。歳を取るとね、そういうのがパッとこうスライドで出てくるっていうのはね、本当に助かると思いますね。良かったと思います。本当にこういうのを各教会で採り入れられてたらすごくいいんじゃないかなと思うんです。

司会;その日立の教会は日本キリスト教団の教会ですか？

S;はいそうです

司会;そういうシステムは紹介していただくといいですね。みんなでそういう情報を共有して。

S;ええもう。全部こう音符と歌詞が全部、1番2番3番ってこう変わって出てきますんでね。何も持ってかなくても。初めての人も、ここですよと示して開かなくてもちゃんと出てくる。ていうか、それで今度はお座りくださいとか、これは献金ですので、とか全部こうね、説明が出るんで非常に良かったですねえ。

司会;ああそうですか。そういうのはちょっと情報として共有したいですね。IT に詳しい人がいない教会がすごい多いですから。やろうと思ってもやれないという状況にありますからね。よろしければその方をご紹介いただけないでしょうか。

S;私はもう引退したもので。そのなんていうの、この人っていうよりも順番になさってるんです。一人の人がなさってるわけじゃなくて、教会のスライド当番っていうのがありまして、順にやってくださってるっていうか。はい、一人の人がなさってるわけではないんで、この人を紹介しますってわけにはなかなかいかないもので。

司会;S さんに日立の教会の時での青年会活動とか、あるいは子供たちの礼拝のことについてどのようなご指導をされていたか教えていただけないでしょうか。

S;私が日立にいた時は、コロナからだいぶ変わりました。正直言ってコロナの途中で教会が中止しましたし、それから青年たちもなかなか会社とかいろんなところね、大勢の中に行っちゃいけないみたいな制約があっ

たり、色々ありましてね。それで、もう本当にコロナで随分教会の中が変わったなっていうのが。変わったって
いうか、その中でも本当にどうしてこうかなっていう。あれでもう何しろ礼拝だけは辞めないように。続けたい
っていう、それが一番で、必死でしたね。だからコロナが一応収まっていますけど、収まる前に一番ひどい時
に、ひどいっていうか、去年まだ収まらないうちに主人がその前に亡くなりまして、それでずっと頑張ってたん
ですけども、若い先生がいらしてくださるっていうことが決まりましたもので、引退して交代いたしました。

ですから、私がやっつかやっつけた頃っていうか、教会学校とかね、ゴスキッズ、ゴスペルとかいろんなことや
ってたんです。けれども、それを今紹介してもだいぶ違ってきていると思うんですよね。その辺が紹介して参考
になるかって言うとそうではないじゃないか、なんて思う部分がありました。

司会;どこの教会でも若い人たちがなかなか教会に出てくるのが少なくなったというような課題を抱えてまし
てね。どうやったら魅力のある教会になれるんだろうか、特に青年たちにとって魅力のある、引きつける教会
は何だろうか、と色々工夫をされていることだと思います。

Y;私どもの教会では、キリスト教関係の音楽活動に関心を持ってイベントをやっています。また教会のオル
ガン演奏を平日の昼に聴けるような機会を教会員外の方に提供しております。しかしそれを聴いた方が主
日礼拝に続けて来るという成果には必ずしも未だ至っていません。また主任牧師が近隣のミッションスク
ールで非常勤講師として聖書のクラスを担当していますが、教え子に教会の主日礼拝に出席する機会を作
っています。そこでは授業の一環として礼拝の感想を教師に提出してもらい、教会に関心を抱くように工夫を
しております。

司会;場所によって様々だと思いますので。おそらく日立の地域の若い人たちに教会に出てもらうような、で
すね。そういう働きかけで苦勞もされてるかと思います。

S;日立教会では、日立にはキリスト教系の学校がございまして、ミッションスクールがございまして、その高
校生の方中学生の方がやっぱり宿題で教会にいらっしゃるんですね。で、その子たちをどうやって捕まえる
か色々考えまして、いらした人には必ずお手紙をしたり、それから学校の方にこういう教会ですっていうような
教会紹介みたいなのをお渡ししたり、いろんな方法を取っています。

礼拝終わった後若い人たちの集まりを月に 1 回ぐらい持つようにして、その人たちが分からない質問をど
んどんして、そこから結構繋がっていくという。年に一人ぐらいは洗礼を受けられて、その洗礼式には茨木キ
リスト教大学、キリスト教学校の先生がいらしてくださるような、そういうような色々なイベントを持ったりしました。

それから茨城キリスト教大学を覚える礼拝を持ちまして、そこに学長先生とかいろんな茨城の学校の先生
をお呼びする時に、生徒たちにこうですっていうような色々なそういうような仕組み持ちました。結構学生たち
が来ていただきました。だから若い人は結構いたと思います。

司会;田舎は人間関係が複雑というか、地元の間人間関係に溶け込まないとなかなかやっつけいけなかつたりし
ますよね。難しいとこですね。

S;田舎はね、ご近所との繋がりがとっても大事なんですよ。だから、なんて言うの、教会をご近所とどうや
って繋げてくか、例えばバザーに近所の人呼ぶとか、花を分けてあげるとか、イースターの卵を全部近所に
配るとか、もうそういうことも全部やりましたね。クリスマスって言えばバスケットを入れてクリスマスのご案内を
近所に、もう来ないと思ってもあげる。プレゼントとして差し上げるとかそういうようなことをやっつかないと。本
当に仲良くなつてかないと教会と地域っていうのは結びついていかないっていうか、そういうことが一番都会

とはちょっと違いますよね。伝道の仕方が違うと思うんですよね。

司会;いやそういうのは貴重なノウハウですね。みんなで共有した方がいいと思いますね。その他にないんですか？ないんですかって言うと失礼だけでも、思いつくものがあればどうぞお話しください。

S;今村先生の教会も今高齢者が多くて。西大井の教会は 10 数名お年寄りの方が集まってらっしゃるってところに私の娘がポット行ったもんですから、とても喜ばれてるっていうか。それから私の孫が今教会学校に 2 人通ってるもんでね、それを喜んで頂いてるんですけども。なかなかね。

教会に今村あずさ先生が住んでないから、やっぱり近所との繋がり、地元と繋るっていうのがちょっとブツンっていうところがあると思うですね。だから私はやっぱり地方に行けば絶対に教会に住んで欲しいっていうのがあります。住まないとなかなか面倒は見れない。都会だと通ってくる牧師っていますでしょ。だからそれだとなかなか伝道はしにくいんじゃないかな。地方の場合はやっぱりその教会に住んで、教会の時の人に牧師になるっていうか、そうならないとなかなか伝道は進まないと思いますね。

Y;牧師自ら様々な近隣の家庭を訪問されて、ご家族の方と親しく交流をする機会を常に持つてこられたのでしょうか。

S;もう常に訪問ですね。やっぱり、その方を訪問して、そのお嬢さまたちと親しくなるとか。それからそういう風にしていかないと、今度お葬儀の時とかね、そういう時にやっぱり繋がらなくなっちゃう。当人はクリスチャンだったけど、お子さんたちは全部違うからもう違ってもいいんですけど。当人がクリスチャンだ、教会でやりましょうっていうような気持ちになってももらえないっていうか。色々ね。そういうことでまた教会でお子さんたちは違ってもお葬儀をやったからお子さんたちも教会に繋がってきて、そっから洗礼を受けられるって方もいらっしゃいましたね。

司会;H さんは明島市という東京の郊外で、まあ半分田舎だと思うんですけども、50 年やってこられてその辺はどうなんですかね。

H;私今まで 50 年の間に 4 人か 5 人の牧師が変わりましたが、一貫して変わらなかったのは開拓伝道の牧師ですね。今 96 歳ですけども、本当に今 S 先生がおっしゃったように、教会の中にお住まいになって地域に生きておられて一軒一軒もう、というぐらいによく訪問なさいました。そして民生委員もやっておられましたので、本当にきめ細かく地域に奉仕されてたなと思うんですね。

それで 30 年 40 年の頃、教会、今 70 周年ですけど盛んだったですね。40 周年の頃はクリスマスになると 100 人近くも来ましたし、子供たちもたくさん来ましたし。本当に、教会に牧師が住んでいて地域に訪問する、それから私たちは病院にもよく行きました。そして子供たちを連れてお巡りさんのところにも行って感謝したり。S 先生がおっしゃる通りだと思います。その地域に骨を埋める覚悟で牧師がそこに生きておられるっていうことで信頼がありますね。

今お葬儀のことも言われましたけど、何かあるとやっぱり教会でお葬儀をして欲しいっていう。最近高齢化が進んでますけれど、多いですね、葬儀をして欲しいっていうことで新しく教会に来られる方もいらっしゃる。開拓伝道で 96 歳になられる牧師は 70 年 80 年やってこられましたけど、その後いろんな牧師先生いらっしゃいましたけど、単身の牧師先生、結婚をして子供さんもおられるんですけど、働いておられたので教会にはお住いにならなかったんですね。そうするとやはりちょっと信徒の方々のあれが違いましたね。そしてその次は今度通いの牧師になりましたので牧師館が空いてるっていうような現状なんですけど、そうするとまた

違いますね。地域に生きるってということから遠のいていくような感じがいたします。S 先生がおっしゃった通りだと思いますね。ま、止むを得ないことだと思いますけど、昔のように子供からお年寄りまで教会に集うっていうことがなくなってきたなっていう感じがします。これからの課題だと思います。

司会;じゃあ新しい牧師を招聘する時は牧師館に住んでくれるかどうかというので判断するというのも 1 つの方法ですね。

H;そうですね。そのために牧師館を新しく立てたっていう経緯もありましたので、元々は教会の中に牧師のお住まいがありましたけど若い牧師を迎えるにあたって別棟を立てたとか、そんなことがありましたけれど。幼稚園も経営しておりましたので子供たちもいっぱい来てましたし。通いの牧師先生だと幼稚園の方まで手は回らないし、地域にも手が回らないっていう感じですね。いろんな事情がおありになるので。難しい時代ですね。

N;幼稚園はずっと存続してるんですか？

H;存続しております。途中で学法人化になりまして、別会計になっております。伝道の頃は園長兼牧師兼。だから牧師家族が一体になって幼稚園と教会やっておりましたので、私たちの子供の頃は幼稚園の担任の先生が教会学校のお母さん先生っていうか、繋がってましたので非常に伝道もやりやすかったんじゃないかと思います。夫婦一体になって。

N;園児は何人ぐらい居るんですか

H;今は 100 人前後ですね。今 80 何人。入ってくる子供たちは 35 人から 40 人ですけれど。全体の数は 100 人。〇〇学園って言うんですけれど、1 匹の子羊が迷ってもちゃんと導くっていうことで〇〇学園。

N;園長は見えるんですね

H;はい今は難しい時代で、宗教教育を強力に出すと園児が集まらないっていう時代ですね。ですので宗教教育はするんですけれども、都会との繋がりをあまり進めないっていう感じになってます。自主性に任せる。昔は教会学校と幼稚園とがきちんと繋がってましたので、子供たちはいっぱいでした。先生も同じ先生だったので。今は全然別ですね。幼稚園の先生は共有って言うんですかね。

N;共有の方々はクリスチャンはいるんですか

H;10 人の内 4 人 5 人ぐらいはクリスチャンですね。

N;〇〇幼稚園としてはやっぱりイエス様の方に導きたいんでしょうね。

H;そうですね。

N;でも基本的にそういうものをあんまり強くそれを出さない、と。

H;そうですね。

N;船橋教会も幼稚園があるんですが、別法人にはなってないんです。教会付属幼稚園なんですね。でキリスト教教育をしてるんですよ。ま、遊び幼稚園なんですけど、いわゆる遊び中心でね。で水曜日には牧師の説教が、礼拝がありですね、宗教の話はするようなんですね。だからそういうこと承知した上でお母さんもお父さんも子供を預けてますから特に遠慮してるはところはないんですよ。だけど、やっぱりねこのコロナと一緒にあってどんどんどんどん園児が減ってるんですよ。今それが大問題なんですけど。

H;そうですね子供の数が少ないですものね。

N;やっぱり子供の数そのものが減ってる。〇〇幼稚園でも減ってるんですか？

H;そうですね減ってますね。そして周りの幼稚園の経営も一生懸命ですので。全部園児を拾って集めるっていか、バスで全部送り迎えするとか。今はバスもありますけど、私たちの子供の頃は基本的に親が送り迎えをする。往き帰りに子供といろんな道草を食いながらそれを学ぶというので、自分の子供は自分の手で育てなさいっていう方針でしたので、手作りの弁当だったし。今は給食になってますね。全然違ってきましたね。昔とは。

バスもあります。幼稚園バスは遠く(の方)は向へに行きますけど。基本的にはお母さんとお父さんが送り迎えしてますね。バスではないです。遠い人にはバスです。キリスト教教育ということで信頼がありますので、是非ともという遠くからの方もいらして、そういうところはバスで送り迎えしてるようです。あと身体障害者もいらっしやいますし、そういうところはバスで。

司会;ちょっとお聞きしてみたいことが 2 つあります。ご主人を助けて牧会しておられたわけなんですけど、牧師夫人というイメージがありますでしょ。特有のね。夫人の鏡みたい。そういう期待を周囲がすると大変だったんじゃないかな、ということと、そうそういう目で周囲から見られてその期待を背負いながら近所付き合いをするというのはすごい大変だったんじゃないか。で、教会の幼稚園なんか併設したりするとそっちもやらないといけないし、プライバシーが、自分個人の時間が持てないとかね、そういう色々な苦勞があったんじゃないかと思うんですけど。

S;私が輪島に行きました時には丁度教会委員の方が幼稚園持ってらっしゃったんです。で、それはキリスト教の幼稚園じゃなかったんですよ。だけど私が一応幼稚園教員の資格持ってますでね、私が神学校卒業してその輪島の教会に牧会するって言ったら、その方が自分はもう年だし最後に幼稚園を、どうしてもキリスト教保育をやりたいとおっしゃって。それまで普通の幼稚園だったのを私が、ということでキリスト教の幼稚園として変えちゃったんですね。だから子供がもう三分の一にバツと減りました。繋がりで辞めなかった子がいたぐらいで、あとは本当にね全くキリスト教のキも分からないような子供と親と。そういうところでキリスト教幼稚園をね始めたんです。で、それで 7 年間やりました。で、それがね、最初の 1 年目はバツとね 30 人ぐらいに減った。それから 2 年目になったらばちょっと増えたんですね。で、3 年目のはものすごく増えてきたんです。で、それは何故かいうと、私が東京出身で東京弁、何て言うの、輪島弁じゃなくって地本の言葉じゃなくて標準語を喋るから子供たちに移るわけですよ。幼稚園行けば標準語を子供が喋るようになるっていうのと、それから讚美歌を歌わせたり色々音楽的なことを教えますんでね、音楽的にすごくなるっていうのが段々に、こう、あれして、それこそクリスマスにページェントとかやったらばそれを初めて見て親が感激してっていうので来年うちの子も入れたい、っていうので結構元に戻ってきたところでスパッとやめました。

私が、私は輪島に残るって言ったんですけど、主人がどうしても新潟の自分の母教会に行きたいからって言って、辞めたんです。私はもう残るって言ったんだけどその主人の教会の人たちが私のところに来て奥さんもどうしても来てくださってと言われるんで、もう諦めて、幼稚園を残念ながら廃園にしちゃったんです。あとね、請われて始めたんだけど、でも園長先生は最後にそのキリスト教保育ができたってということでとても良かったです。園の子供たちがお祈りするってことを覚えてくれること、そういうことで本当に仏教の強い輪島って地域にキリストの気持ちを思った子ができた。だからその幼稚園出た子に洗礼を受けた子が結構いるんですよ。だから、なんて言うでしょうね、神様はどこにこう種を撒いたら必ずそれが育つとは限らないけれども芽が出てる子もいるってということね。

はい、だからそういう点で私は最初は牧師でもなかったし、輪島ではね牧師っていう仕事できなかったけれども、牧師でもないし奥さんでもないし、幼稚園の先生っていう形でした。でまた新潟行ったら今度は奥さんというよりももう牧師だと。主人はなんか関東教区の仕事だのなんだの引っ張られますからね、主人が居ない時に私は説教したりあれしたりで、結局私は牧師でしたね。だから奥さんっていうより牧師だったかな。そんなでちょっと奥さん奥さんっていう感じではなかったような。はいだからちょっと違うかもしれません

N; Sさんそのね、輪島の幼稚園はどうなったんですか？

S; その後もう潰しちゃいました。後継者がいなかったから、結局。はい、私が宗教主任として続けられなかったから、結局後継者がいないから、下にいた子たちが卒業したら終わり、という感じで。7年間続けたんですけど。在園生が卒業したら廃園にしました。

N; それは残念だったですね

S; 残念なんですけど。

N; Sさんもう1つ伺いたいことがあるんですけどね。輪島は、あそこは浄土真宗が盛なんじゃないですか。それでね、私は浄土真宗っていうのは教えがね、すごくキリスト教に似てると思うんですよ。そんなことないですか。それでね、そういう親たちの宗教状況からしてキリスト教ってのは受け入れやすいんじゃないかと思ですが、そんなことはないですか？

S; なんて言うんでしょう。そのう、経緯で全く違いますね。もうね、地盤があって、お寺の地盤があって、檀家っていうか、そういうのが全部組まれてますから、入る隙間っていうのはないですね。だからなかなか。その伝道するって言っても新しく教会に来るっていうことは非常に新しいことですね。まして洗礼を受けるっていうとなるとそれも大変です。それで小さな、小さなっていうか、大体もう街の人はお互いに知ってますからね。あそこの子行っただかね、あそこの子がこっちへ行っただかいうのは全部分かっちゃいますのでね。

Y; よく都会でもありますが、家族の中でキリスト教の信徒は自分だけで、他の家族が浄土真宗で異なるために問題が起きることもあると思うのですが、そのような相談や悩みを教会員から訊かれたことではないでしょうか？

S; それはありますね。洗礼受けたいけど許してもらえないとか、色々そういうことはもういっぱいありましたね。何て言うか、キリスト教になるっていうこと自体が、洗礼を受けるってことはものすごい大変でしたね。でも一旦よそから輪島に来た人、こういう人たちの中にクリスチャンがいたりすると、もう人たちはキリスト教の人だっ

ていう目で見ますからね。で、今からもう 50 年前だから、本当に、住んでる人っていうのはもう分かっちゃってるとか、この人がキリスト教の人だ、この人はこういう人だっていうのはねもうお互いに分かっていますし。

だからそういう点では中々あれだったんですけども、やはりその中で核になる家庭がある。その家庭をしっかり押さえて、その子供たちのお友達をこう楽しくね、クリスマスには遊びにいらっしやい、みたいな感じで色々誘って、教会っていうのはいいもんだよって教えるっていうかね。それで通うっていうか、その代わり洗礼の時になるとまた問題が、それはもう絶対的に起こります。親のとかね、そういうのがもう難しかったですね。

N;それで輪島には何年ぐらいいらしたんですか？

S;私は 7 年。

N;その間に御宅の教会で洗礼を受けた人は何人ぐらいいたんですか？

S;主人がね、まず正教師ではありませんでしたので、最初は伝道師からで。丁度そのころが紛争の時でございましたんで、正教師になる試験が行われなかったんですね。それで 1、2 年遅れたっていうのがありまして、その後で洗礼を受けた子供が何人いたかな。大人の人も一人いたし子供たちもいたし、そうですね 7 年いた間で 4 人、5 人？。

N;こういう社会状況であってもやっぱり出てくることは出てくるんですね。逆に言うと。今何うと難しい社会状況でしたね。

S;水戸教会の先生の奥さんになられてる方ね、その方は主人の(受洗)1号で、主人が資格を取るのを待ってたっていうか、そういうような方もいらっしやいますし、牧師夫人になった方がそうですね。そして幼稚園の父兄の方が一人受けられて。それから若い男の子が、それはもう昔からキリスト教のクリスチャンの家庭の男の子が一人と、それからもう一人。だから 5 人ですね、5 人。若い子が 3 人、お歳の方が 2 人ぐらい。そうでしたっていうか、もう夢中。私も若かったから夢中になってやってたんですよ。

司会;じゃあ輪島に行った年は、ご主人は伝道師で、2 年ぐらい経ってから正教師になってそれから 3 年。

S;輪島に行った次の年はね教団で試験やらなかったんですよ。信徒伝道者みたいな感じで行って、それから補教師の試験を受けて。主人と私と 2 人一遍に補教師の試験を受けて。で、正教師の試験を 2 年経ってからしましたから、5 年ぐらい、4 年間洗礼授けられなかった。それでうちの子供たちが幼児洗礼を受けるのは輪島に代務者として先生が来ていただいた時に洗礼を授けていただいたという次第です。

司会;あそうですか。いや若かったんですねお 2 人も。

S;若かったです。そんなの 50 年前の話ですから、もう参考には全然ありません。今、それよりも全部あそこところが(2024/1/1 能登半島地震の)火事で焼けちゃったのが私もう本当にショックで。幼稚園のあった場所も全部焼けちゃったんです。

司会;ああ輪島の大火。こないだのですか？

S;あれはもうショックですね。本当にね、子供たちから1月に年賀状が来てたんですけどね。年賀状が届かないんですよ。

N;そうですね。残念です。いい街だったんだけどね。私の妻が金沢出身なんですね。それで輪島にも行ったことがあります。私もだいが前ですけど、50年以上前だけに行ったことあって。輪島の朝市ってあったでしょ。朝市に行ったことがあります。

S;金沢から輪島までね SL が通ってたんですよ。私が出た時はそれで SL を見ながらも東京生まれだから感激して見てたっていうか。それで(昔ある時)主人がなんで帰ってこないんだってちょっと怒ったことがあったんですけど、主人は SL を見てた。そんな時代でしたね。でも今も全然違って鉄道もなくなってバスになっちゃって。皆さんのお話を聞こうと思って出席したんです。

司会;何でもいいから質問してください。どうぞ自由に。私の思い出を言いますとね、私は仙台で育ったんですよ。仙台の八木山というところなんですけども。そこは戦後間もなくのころで外地から内地に引き上げて来た人が役所から開拓用の土地を与えられて開拓していたところでした。その一区画が牧師で、自分の敷地に教会を建てて農業しながら教会やってたんです。そこは牛や羊を飼っていた、田舎ですよ。仙台の郊外でしたけども。その教会で育ったんですね。こないだ2年ぐらい前に40年ぶりぐらいに仙台に行きましてね、近くを歩いたら昔の遊んだ教会の建物がそのままはそっくり残ってたんです。それでかくれんぼした建物とか鬼ごっこした木とかね、そのままそっくり大きくなって。木が大きくなって建物が古びて残ってるんですよ。で、すごい懐かしい気持ちになりましたね。田舎の教会で育って何年かして戻ってきて昔の建物がそのまま残ってたりすると、すごい、あ、帰ってきたなという気持ちになります。

その時に教わった先生はもう亡くなっていて息子さんが後を継いで牧師をやっていました。彼は私の10歳くらい上で、私の兄の様な感じでした。今はその息子の奥さんがまだ頑張ってます。たまたまその奥さんとお話したのですが、(御主人である)息子さんは癌で老衰でもう亡くなる寸前でした。コロナで面会できなかったんです。そこで奥さんにビデオレターを撮ってもらったのですが、それを病床のご主人に見せることができました。それを見たら「謙も年を取ったな」って言ったそうです。そういう昔の教会の人の繋がりがあっていいことですね。その教会はどこにも属してない単立の教会なんですね。地方の教会が父から息子、そのお嫁さん、その孫と継承しているというのは素晴らしいと思いますね。色々批判はあるんでしょうけれども。

だから H さんの教会もね 90 何歳の牧師先生のお嬢さんかお子さんかお孫さんかが牧師になってそこに住んで牧会を始めたらいいなとは思いますがね。他人事ですからですから簡単に言いますけど。

H;園長は引き継がれたけど牧師にはなれなかったし。で、継ぐ方はいなかったの他の教団からも来ましたし、いろんな牧師先生がいらっしゃいました。これからどのようになっていくのか、それが今の課題ですけど、時代が全く変わってしまいましたので。

それから全然別のお話なんですけど S 先生が先ほど地方の大変さ、その地域に生きていく大変さっておっしゃいましたけど、浄土真宗の地域でしたね。私も会津が浄土真宗一色で、父がお寺の総代なんかやりました。兄弟はたくさんいたんですが、その中でクリスチャンになるっていうことはすごく大変なことだったです。ただ幸いなことに私都会に一人で出ましたので、そこでキリスト教に出合って、先ほどお話ししたように教会に入り浸って教育されて、ずっと三つほど教会代りましてけど今に至ってます。その地方の宗教の中にキリスト教が溶け込んでいくというのが本当に大変なことですね。

今でも田舎から、その、私一人がキリスト教のものですから色々あります。でも法事なんかがありましたら、地方に行ったらちゃんとその地方の宗教に従います。法事にも出ます。お寺にも行きます。般若心境も唱い

ます。だから皆様がその地域で尊んでいらっしゃることにこちらでも敬意を払って溶け込んでいくことによってキリスト教ってというのはそういうものなんだなって 1 目も 2 目も置かれるようにはなりませんね。相手が尊んでいることをこちらでも尊ぶっていうことで。確かさつきおっしゃいましたけど浄土真宗とキリスト教ってすごく似たところがありますね。言葉は違いますけれど。そういうことも学んでいきたいなどは思ってますけど。

N; そのことで言うとね、日本のキリスト教の牧師さんはね、もっとその辺の日本の宗教状況というのもよく踏まえた上で説教もされると良いなと思ってるんですけどね。

T; 全くその日本の宗教状況を考えないで喋ってるように感じられるんですよ。だから浄土真宗の、実はね、私の母が浄土真宗の信徒だったもんですから。かなり小さい時から聞かされたんですよ。私はね。で、そのことから言うとね、もっとその日本の状況を押さえた上で話したらどうかな、と思ってるんですよ。

H; **T** 先生その辺のところお話ししてくださいますか？

T; はい、いや今皆様のお話を伺っても私はただの信徒でございます。皆様のお話をひたすらさせて聴かせていただきますが。ただ、そのお話がピントがずれてしまうかもしれませんのでお許しいただきたいんですが、今せつかくの機会なのでこうして同じ信仰を実行しながらスピリットとして染まる者と、伝道者として献身される方がいらっしゃるということですね。この伝道者として献身されるその決意というのはどういうところ、何が契機、何が力になってたんでしょうか？ 今日、**S** 先生もいらっしゃいますし **H** 先生もいらっしゃるわけですからちょっと教えていただけるとありがたいなと実は思っております。

S; 私の場合はね、私の祖母がドイツ人でございまして、おじいちゃんの代からもうキリスト教っていうかずっとキリストの家庭で育ちまして。で、小さい時からもう教会に行くのは当たり前でずっと教会に行ってたんですけども。ミッションスクールに行きましてね。ミッションスクールでちょっとキリスト教のことを勉強したりなんたりする時に、あれ、これ違うじゃないのっていうようなね、感じがしたんですね。学校で教えるキリスト教と教会で教わるキリスト教とちょっと違うなっていうようなことを感じまして。それでやはり本当の信仰、本当のキリスト教っていうものを伝えていかなきゃいけないみたいな使命を持ちまして。

その時ね、50 何年前は女性牧師っていうのはほとんどいなかったわけですね。で父も母もクリスチャンなんですけども、女は牧師にならなくていいと。幼稚園の先生になれということで幼稚園の先生の学校へ行って勉強させられたわけですけども、私は幼稚園の学校へ行きながらも聖書の勉強もしたいと思って、東神大の夜間講座へ通いながら保育学校へ通ってたんですね。学校 2 つも兼ねてたんですけど。

それでそこを卒業しましてから幼稚園の先生をしながら、どうしても今度は伝えたいっていう気持ちが多くなりまして、女性にしかできない伝道方法があるんじゃないかっていうような思い。女性でもいいじゃない、牧師になろう、っていうような思いで神学校へ行って。牧師夫人にはなるはずじゃなかったんですけども、主人にちょっと騙されまして。結婚してたもので私は自分一人でも牧師になるつもりでおったんですけども、そういうことで 2 人で任地に行くことになりました。そういうようなことがきっかけでございます。

司会; ご主人のリードが良かったんじゃないですか？

S; いや、騙されたんだと思うけど。大体ね、家庭には向かないタイプだから。お転婆でありまして。だから妻になるんだったらあなた違う人と結婚した方がいいわよ、て言ったのに、いやそういう訳じゃないっていうような、なんかそこでちょっと神様に。

T;なるほど。はいそうですねありがとうございます。H 先生はいかがでございます？

H; 私先ほどちょっとお話させていただきましたが、神仏習合でしたので、その浄土真宗の中で非常に宗教的にも、何て言うんですか、山の神様、川の神様、籠の神様って何でも神様、神様の地域だったんです。それで人間を超えたものに頭を下げるっていうことは小さい頃からそうでした。けれどもまあ高校時代ぐらいになって生意気になってきますと疑問が湧いてくるわけですね。その時に文学集でカラマゾフの兄弟を読んでいて、3 人の兄弟の一番上は実業家として成功するっていうか農業関係。その 2 番目は頭でっかちですよ。それで3番目の弟がその心のもっとも優しいそのキリスト教の本来の姿を書いていたので、心の中にそのことがずっとあったんですね。

そのまま故郷を離れて全然違う土地に行き教会に行きましたら、その知りたいっていうことが芽ばえまして、教会に出入りしていた訳なんですけど。私はそこで感化されて牧師になりたかったんです。で勉強するために上京して。でも牧師になる前に経済関係の役所に居りましたので、経済学部を卒業したんですが、でも自分のやることは経済ではないと、やっぱりキリスト教の方の心の問題に行きたいと思ひまして。あ、それから夜間神学校出ました。それからもう 1 つ別の神学校行きまして、そこで信徒伝道者っていうんですか、そういうその道を歩もうとしてたんですけど。

ま主人に騙されてではないですけど結婚しまして、こちらの方の道に来てしまったわけですね。そして3人子供、娘ばかりですけどおりまして、子育てが終わったところでまた始めました。勉強を。そして現代に至りますけど一貫して、やっぱり力を求めるんじゃない、頭を求めるんじゃない、やっぱり心とか霊とかそういう方面を、なんて言うんですか、極めたいっていうか。残された時もそんなに多くないんですが、そこにこう集約されてるような気がいたします。残された時間をいかに生きるかっていうことですね。で、こういう会に招かれて皆様にお会いできるっていうことが私すごく嬉しいんです。これ神様のお導きだなんて思っ。はい、だからこの会は貴重な会です。皆様にお目に掛かれて。説明になってるかどうか分からないんですけど。

司会;S さんに最後の質問をしたいと思ですけどね。私の母はね、さっき言った向山幼稚園の先生をしてたんですよ。そこは教会の幼稚園でしたから日曜学校もやってたんですよ。で、母は平日はずっと幼稚園の先生をやっていて、で、休みの日は日曜学校の先生をやって。そうすると実の子供はほったらかしになるんですよ。で、学校から家に帰って来ても母親いないんです。ですから半分鍵っ子みたいな形で育ちましてね。割と寂しい思いをしてたんですけども。S さんのお嬢さんはそんなこと言いませんでした？寂しかったとか。

S;幼稚園に連れてってましたからね。2 人は輪島で生まれたんです。で一人は東京で生まれて輪島に連れてって。であと 2 人はもう輪島で生まれましたんでね。みんなおんぶしながら保育して。上の子はもう学校終わったら幼稚園に来てっていう感じで連れて歩きましたね。で日曜日はもう自分たちは見てもらえないっていうのは分かってますから自分たちで遊んだり教会学校の子供たちそれから役員の人たちの子供たちと一緒に組んで遊んでましたね。だからあんまり寂しいっていうことはね言わなかったです。家族だけで行動するっていうことはなかったです。必ず誰かが入って必ず誰かを連れて必ずどっか遊びに行くんでも誰かを連れてっていうようなね。家族だけでっていうようなそういうことはなかった。実際にしませんでしたね。

司会;ああそうですね。まあそれであれば良かったです。

S;それが良かったのか悪かったのか、今子供たちは自分の家にいろんな人を連れてくるっていうのが平気ですね。

Y;私が今日のお話の中で学んだことは地方の環境の中で浄土真宗とキリスト教という 2 つの宗教が必ずしも矛盾をしないと考え、クリスチャンでありながら浄土真宗も理解できる部分があると感じておられることです。そのような心は我々日本人にとって調和や和を大切にするという自然な気持ちから生じています。それは日本的な環境のなかでキリスト教を信仰されて護ってこられた結果と感じました。また矛盾がありながらもそれを乗り越えて包み込んでいるような信仰生活はとても大切な姿勢であると思います。以上でございます。ありがとうございました。

司会;こういうビデオ会議はですね、じっくりとお話できるのが特徴で、教会ですと牧師も色々忙しいし周りに人もいるだろうという制約がありますので、じっくり話そうと思ったらこういうビデオ会議がいいんじゃないかなと思います。お勧めします。それでは、そうですね、締めのお祈りを T さんをお願いできますでしょうか。

了